

令和6年司法試験予備試験論文式試験の結果を受けて

2024年12月19日

1 令和6年司法試験予備試験論文式試験の結果

本日、法務省大臣官房人事課より、令和6年の司法試験予備試験論文式試験（以下、「予備試験論文式試験」といいます。）の結果が発表されました。結果は以下のとおりです。

受験者：2,647人

（令和5年：2,562人、令和4年：2,695人、令和3年：2,633人、
令和2年：2,439人）

採点対象者：2,617人

（令和5年：2,544人、令和4年：2,679人、令和3年：2,619人、
令和2年：2,428人）

合格点：245点以上

（令和5年：245点以上、令和4年：255点以上、令和3年：240点以上、
令和2年：230点以上）

合格者数：462人

（令和5年：487人、令和4年：481人、令和3年：479人、
令和2年：464人）

合格率：17.65%

（令和5年：約19.14%、令和4年：約17.95%、令和3年：約18.29%、
令和2年：約19.11%）

※ 合格率は、採点対象者に占める合格者数の割合で算出しています。

2 データから見る司法試験予備試験論文式試験

まず、最も注目の集まる合格者数についてですが、令和2年からの推移をみると、464人（令和2年）→479人（令和3年）→481人（令和4年）→487人（令和5年）、となっており、450人以上500人未満の間に収まっていたところ、今年もこの幅には収まる462人でしたが、前年比25名減（前年比94.9%）であり、直近5年では一番少ない合格者数でした。

次に、合格率（採点対象者数に占める合格者数の割合）についてですが、これも令和2年からの推移をみると、約19.11%（令和2年）→約18.29%（令和3年）→約17.95%（令和4年）→約19.14%（令和5年）、とおおむね17%後半～19%前半の割合に収まっており、今年もこの幅に収まる約17.65%となりました。しかし、17.65%という数字は、平成23年（第1回）の9.51%、平成24年（第2回）の14.25%に次ぐ低い合格率であり、それらが初期の合格者数をまだ多く輩出していない頃の合格率であることを考慮すると、事実上、過去一番難しい（合格率の低い）論文試験であったと評価することができます。

3 司法試験予備試験の論文式試験に合格するためには

予備試験は難関試験ではありますが、〔設問〕の題意を正しく把握できる学力を身に付け、判例や条文の知識・制度趣旨に基づいた論理的な論述をすることができれば、必ず合格することができます。これは、司法試験予備試験の論文式試験に限らず、口述試験や、司法試験の論文式試験でも同じことがいえます。

司法試験予備試験は、平成23年から始まり、令和6年まで14年分の過去問の蓄積があります。したがって、まずはこの14年分の過去問をしっかりと分析し、実際に解いてみるのところから始めましょう。

また、具体的にどのような答案を作成すれば合格ラインに到達するのかという、いわば相場観を身に付けるためには、再現答案の分析が必要不可欠です。LECも予備試験受験生向けの再現答案集（『司法試験&予備試験 論文過去問 再現答案から出題趣旨を読み解く。』）を出版しておりますので、是非、これを活用して、合格答案の論述の流れを習得してください。

ゼロから始める方は、入門講座を活用して欲しいところです。また、予備試験論文式試験の答案練習会には是非とも参加し、答案を書いて、合格者に見てもらふことは必ず行うようにしましょう。本番さながらの実戦訓練を日頃から積み重ねることが試験対策上最も有意義であることは、誰もが認めるところです。

4 おわりに

予備試験合格の事実が大手法律事務所、外資系法律事務所等の就職活動において極めて大きな威力を発揮することも併せて考えると、大学在学中の皆さんに限らず、法科大学院在学中の皆さんも、予備試験合格を目指し、これを突破して司法試験に最終合格することができれば、将来の選択肢も大いに増えるのではないかと思います。

皆さんの日々の努力が結ばれることを祈念しています。

以 上